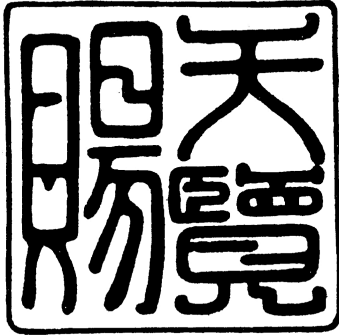


十六 賜天覧（通俗中根式速記法）

私は昭和二年十一月十五日付で「通俗中根式速記法」という本を出したのです。この本を出すとき題字を書いていただこうと思い、元総理大臣、清浦奎吾子爵（後、伯爵になられた方）と侍従武官長奈良武次陸軍大將にお願いしたのです。清浦子爵は「廣業」、奈良大將は「文明の先駆」と書いておられたのですが、「廣業」は業（ワザ）を広めよです。奈良大將のは「速記は、文明の先駆である」とお思いになられたわけです。奈良大將ほどのお方が速記に対してお考えになっておられることと、私の考えとが一致していたことは非常にうれしく思ったのでした。そしてその翌年、昭和三年四月にこの本を天皇、皇后両陛下、

皇太后陛下に献上したので、それから「賜天覧」という判を押して出していたのです。その当時、賜天覧、元総理大臣清浦奎吾子爵、侍従武官長奈良武次陸軍大將の題字が載っている本は最高の本でした。

この本にはまず第一頁に「愛する国民を文字のドレイより救え」という目標を掲げ、次のようなはしがきと「識者に檄す！」という檄文を書いているのです。



（編者注 以下は著書「通俗中根式速記」から引用）